

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	地域に開かれたグループホームを目指している。	○	地域住民の方が気軽に足を運んで頂いたり、出向いていったりしながら地域と共になじんで過ごしていける関係を構築したい。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	理念に沿ったサービスが提供できるよう心がけ、利用者のできることを見つけて能力を引出すように努めている。		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	利用者の方が自分らしく生きる方法・安心して過ごすことができるように家族の協力も得ながら妥当適切に対応するようにしている。	○	まだまだ、地域への認知症への理解が浸透していないので、地域をうまく巻き込んでいこうと努める。
2. 地域との支えあい				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	近所の方には、会釈や挨拶をするよう心がけている。		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	地域の一員として活動予定が把握していないために参加することをしていない。	○	区公民館、町の行事予定などを把握し、出向いたり交流しながら関わっていくようにする。

沖縄県(グループホーム かなち)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	月2回の介護勉強会を主催し専門的な知識を地域に還元し在宅介護への意識を高めてもらう。	○	基本的な知識・技術を更に深め、楽しんで在宅介護に関わることができるような工夫をする。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	初めての評価なので、外部評価を受けることで、今後のサービスの質の向上、職員の質の向上に繋がると思う。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している。運営状況や職員の研修、行事、地域との交流や日々の利用者の暮らしについての報告が主である。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの行事・勉強会・夕食会などに案内をかけ、行き来するような機会を設け相互で情報を共有しサービスの質向上に努めている。	○	今後は地域ケアレベルを押し上げ、市町村との連携を密にし高齢者になっても地域で支えていける地域を構築するように努める。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	家族が後見人制度について聞いて来たら、相談員が説明を行っている。	○	いずれ該当する利用者が出てくるので、家族に説明する機会を設ける。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員や家族に対しても、常日頃からあってはならないことを話している。言葉の虐待にも気をつけるよう十分注意を促している。		勉強会などの機会を設け、防止するよう、個々の倫理観の啓蒙尾を図っている。

沖縄県(グループホーム かなち)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所説明会を行い、グループホームの内容をより分かりやすく説明した。利用者や家族の声や要望を聞くようになっている。		職員はご家族や利用者の不安などに対して、十分説明できるように、日ごろから話し合っている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	些細なことでも話せる雰囲気をつくり、職員は耳を傾けるよう心がけて接し、直ぐに反映ができることは対応している。		不満、苦情があった場合、職員はミーティングを開き即、改善に向けて取り組んでいる。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年4回の広報誌で報告しており、また、健康状態については電話連絡を密に行っている。金銭管理では、出納帳を作り報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情に対しては、投書箱を設けている。	○	今後は、ホームに改善してもらいたい事などを聞き取りできるような機会を設けていく。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回の業務評価で介護保険室長と意見交換を行っている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	その時々に応じて必要性がある場合は調整している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者に影響が出ないよう、なじみの関係になれるよう努めている。		早く馴染みの関係になれるよう、コミュニケーションをとり、不安にさせないようにしている。

記入日:平成20年5月31日

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>センター室長より十分な質の向上が図れる研修に関しては、管理者と業務調整を行いながら適材者を揮って参加をさせている。</p>	<p>センター室長より参加要請があった場合、各々交代で公平に参加できる機会を設け、業務に支障のないようにしている。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>2ヶ月に1回、グループホーム連絡会があり、管理者が参加している。相互で情報交換や研修・施設見学や交流を図っている。又、南城市のグループホームとケアレベルの質について意見交換等を行い相互間で活かしている。</p>	<p>○</p> <p>更に相互の質向上のためにも、外部施設と交流を持ち、職員間の勉強会等も取り組んでいきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>仕事上のストレスを軽減するよう週休・休日をきちんととっている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員はそれぞれのチームケアを尊重し、業務がスムーズに流れるようにサポート体制を整えている。</p>	<p>月1回のミーティングで職員間の要望などを話し合える機会を設けている。</p>
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所後数日は不安で不穏になることもあったが、利用者に配慮しながら言葉掛けを密にし寄り添ってケアを心がけ信頼関係を築いている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ホームを見学してもらい、相談受付担当の管理者並びに介護支援専門員(相談員)から施設概要の説明、職員の勤務体制、健康上で不安なことや疑問点などが相談しやすい雰囲気で行うようにしている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホーム見学時に、管理者または相談員が対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	不安にならないよう、入居後1日は家族に宿泊して頂き、その利用者さんと家族の関わり方を理解するように努め、職員も寄り添うケアを心がけ、他の利用者とも親しくなれるような雰囲気をつくるように、常に工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の残存機能を活かし、食事作りの下ごしらえなどを手伝ってもらい、時には職員が利用者から教えてもらいながら、利用者と職員がお互いに支えあう関係を築いている。	○	お菓子作りや手工芸など、利用者の得意分野を活かした活動を増やしていきたいと考えている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者と家族を交え、ホームの中で過ごせる環境を作り、また、バーベキュー会や試食会なども設けて家族と一緒に過ごせる時間を共有させ、本人を支えていける関係作りをしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族との外出や受診時には、家族との関わる時間を大切にするために、事前に準備を整えたりして胸躍らせるような工夫をしたり、外出から戻った時も利用者から土産話をたくさん聞くように努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来やすい環境づくりを心がけ、プライバシーの守られた相談室を開放するなどの工夫して取り組んでいる。家族や馴染みの友達に手紙やはがき等を書く支援をし、途切れないようにしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	レクリエーションやお菓子作りなど全員で参加できる場を多くし、利用者同士の会話も増えるように取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在、退去者なし。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	馴染みのある家具の持込や、利用者それぞれの要望に基づいて家具などの配置ができるようにしている。また、更衣や入浴の際も、本人の意向を尊重し、シャンプーや石鹸なども希望のものを使用していただくようにするなど、さまざまな希望や意向を最大限尊重するよう心がけている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の面会時や本人との会話の中で、生活歴や暮らし方を把握できるよう努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりの心身状況を踏まえ安心して日常生活を送ることができるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	随時、利用者や家族の意見などを聞いているが、皆で話し合う機会が少ない状態である。	○	利用者、職員、家族など、それぞれの利用者に関わる人が集まり、介護計画についてもっと本人に沿って深めた内容にしていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居時や期間の更新時に介護計画を作成している。	○	本人の状態変化に合わせ、介護計画をその都度変更し、計画内容を皆で共有していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はその日の勤務者が支援内容を記入し、月1回のミーティングで活用している。	○	個別記録をまとめる担当職員を決め、介護計画の見直しに活かしたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイケアや小規模多機能ホームと交流している。		行事などを合同で企画し参加している。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	実習生や、職場体験の学生、定期的なボランティアなどを受け入れている。	○	ボランティアを積極的に受け入れていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスは利用していない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在のところ、本人の意向がない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族対応にて月1回かかりつけ医の定期受診をしている。		

沖縄県(グループホーム かなち)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	本人、家族、職員、看護、主治医と常に状態に合わせて話し合い方針を検討していきたい。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	グループホームでできるターミナルケアや今後の方針についてその人にあった心温めるケアができるよう常に検討し方針を盛り込んで行く。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳を維持することを徹底し言葉掛けや対応に気を遣い、特に個人情報の取り扱いには十分注意を払っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者一人ひとりに分かるよう説明し、本人の自己決定に基づいた支援を心がけている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの心身の状況に基づいた支援を行い、入浴や食事なども時間をずらして対応するなどの工夫もしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	更衣の際は、本人の希望される服を選び、美容は本人の望む店に行っている。また、有償ボランティアの美容師がホームに個性を尊重してもらったカットをしてもらっている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	病院の管理栄養士が作成した献立表に基づいた食事を作っている。本人の嫌いなメニューの場合は別のものを出すように対応している。片付けや食器洗いは利用者も一緒にこなしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者一人ひとりの健康状態に合わせ、おやつや飲み物を楽しんでもらっている。家族からの差し入れなどの心遣いにあわせた飲み物を提供し、感謝しながら召し上がってもらっている。	

沖縄県(グループホーム かなち)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	定時および随時にトイレ誘導を行い、排泄のリズムを把握し、失禁をできる限り減らすように努めている。日中は尿取りパッド、夜間はオムツ対応というように、使用物品の工夫も行なっている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は基本的には決まっているが、本人の健康状態や希望、外出の都合などでずらすこともある。冬は浴槽にも入っていただき、夏の暑い時はシャワー浴を実施している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの心身状況によって休息を摂ってもらっている。昼寝の時間は決められておらず、本人の希望に合わせている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や後片付け、洗濯物たたみなど利用者一人ひとりの好きなことやできることに積極的に参加してもらっている。ホーム全員で外食することも実施している。そのことで、TPOにあわせておしゃれを楽しんだり、店の雰囲気や好きなメニューで嗜好を楽しんでもらう。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外食に出かける時などにスーパーに立ち寄り、希望される利用者は買い物を楽しんでもらっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所を散歩したり、職員と一緒に買い物に出かける機会をつくっている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人、家族の要望等を受け入れている。		

沖縄県(グループホーム かなち)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望や要望がある時は、支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問があった際は居室や相談室を開放し、ゆっくり話ができるようにしている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は一切せず、自由に生活して頂いている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は鍵を掛けていない。玄関は自動ドアで通るたびに開閉してしまうので、タッチセンサーを取り付けているが、自由に出入りできるようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は利用者の行動や状態を見守り、職員は常に利用者の居場所の確認を行い、夜間は2時間おきに巡視し確認を行なっている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険なものは鍵のかかる場所に保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルを作成し、未然に防止する取り組みを行なっている。事故報告書を作成し、再発防止の話し合いを行い改善している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の救命救急講習を受講しAEDの操作訓練を行なっている。	○	年1回は必ず普通救命講習を受講できるようにする。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	区の公民館や児童館に災害時協力をあおぐ。	○	自然災害・火災訓練時には地域指定の非難訓練場所に誘導する。センター独自で年2回(昼夜想定)の火災訓練を行う。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	随時、家族がホームに来所する際に起こりうるリスクの説明を行なっている。		未然に防止する方法を説明し了解を得ている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックなど、パーソナルチェックで状態をすぐに確認できるよう記入している。異常があった場合、訪問看護に報告できる体制が整っている		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人台帳のファイルにそれぞれ服薬している薬の内容の説明書を閉じており、変更がある場合には、ケアノートで職員に申し送りをしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	職員は利用者に対して、1時間に100mlの水分補給を徹底しているまた、定期受診時に服薬を処方にてコントロールしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアを実施している、又、口腔状態によっては訪問看護の指示を仰ぐ。		定期的な歯科受診は家族が対応している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	病院の管理栄養士の助言や訪問看護のアドバイスなどで個別に対応している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	予防接種は家族対応で行なっている。うがい、手洗い、消毒を心がけている。また、法人の感染委員会があり、契約している訪問看護の看護師が月1回の委員会に参加し、その内容や予防方法についてをその都度連絡や対応の仕方を教えてもらう。		感染症が流行している間の面会や訪問の方には、備え付けのマスク着用、消毒を依頼している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	職員は手洗いの徹底、エプロンの着用を義務付けている。食材は賞味期限内に使い切るようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ベランダに菜園を作ったり、玄関に花を飾り、家庭的雰囲気をつくるよう努力している。	○	将来的は屋上菜園をつくり実のなる喜びを楽しみたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	冷暖房の温度調整は利用者が快適に過ごせるよう高齢者の肌温度を常にイメージしながら職員がチェックしている。リビングには四季の花を飾ったり季節感を楽しんでいる。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	特に強要はしていないが、それぞれの場所が決まり、また、居場所に配慮の必要な利用者はソファの場所へ誘導している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居する際、馴染みの物や愛着のある物を持って来るようお願いしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気をこまめに実施し、必要な方には空気清浄機・加湿器などを設置している。また、必要に応じて空気清浄機を家族が持ってきて設置している利用者もいる。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建築時にバリアフリーについては十分に検討し段差も少なく、トイレ、浴室も滑りにくいタイルを使用している。手すりは利用者の手の位置にあった手すりを使用している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	場所の分からない利用者には、その都度案内している。居室入り口には、利用者と家族の希望を確認してから、各々自作のプレートを飾ったり、トイレには大きく【トイレ】と表示している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	自由に入出入りでき、時々昼食をベランダで食べたり、家族会などを開く場所として活用している。又、ベランダ菜園をしている。建物の4階にいいの場・屋上でゆっくりと景色を眺めたりしている。	○	1階の芝生の庭をレクをして楽しむ場所に活用していきたい

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

沖縄県(グループホーム かなち)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ① 診療所・看護ステーションがセンター内にあり、健康面において医療連携がしっかりしている、急異変時の対応についても相互で情報を共有し体制が整っている。
- ② デイケア、小規模多機能も同センター内にあり、交流することがあり、マンネリ化しないように工夫している。
- ③ 地域へ外出する際は、先方の店舗に事前に連絡をして、利用者へ声掛けをして頂けるよう協力依頼し、快く対応してもらっている。
- ④ 家族の面会を重視しており、協力的である。

記入日:平成20年5月31日